

輸入割りばしの防かび剤と漂白剤

平成15年1月21日、厚生労働省から輸入割りばしに係る監視指導について通知がありました。

これに基づき中国産の竹ばし4検体と木ばし1検体について防ばい剤(OPP, TBZ, DP, イマザリル)及び漂白剤(二酸化硫黄)の材質試験を実施しました。結果を表1に示します。

表1 材質試験結果

単位：mg/膳

材質	原産国	検査件数	OPP	TBZ	DP	イマザリル	二酸化硫黄
竹	中国	4	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.4~5.0
木	中国	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.05

竹ばしの4検体からはいずれも二酸化硫黄が検出されました。また、防ばい剤は全ての検体から検出されませんでした。

先に東京都が輸入割りばしについて検査した報告がありますが、防かび剤は全く検出されず8割の検体から材質試験において二酸化硫黄(0.035 ~ 1.1mg/g)が検出されていました。今回の検査結果は東京都の報告と同じ傾向を示しています。

通知では溶出試験による暫定限度が示してあります(表2)。暫定限度はADIを体重 50kg に換算した量を食事回数(3 回)で割った値です。材質試験で残留が認められなかった場合は溶出しなものと判断して差し支えないとされています。

表2 暫定限度

検査項目	ADI	50kg換算ADI / 食事3回
オルトフェニルフェノール (OPP)	0.4 mg/kg体重/day	6.7mg
チアベンダゾール(TBZ)	0.1 mg/kg体重/day	1.7mg
ジフェニル(DP)	0.05mg/kg体重/day	0.8mg
イマザリル	0.03mg/kg体重/day	0.5mg
二酸化硫黄又は亜硫酸塩	0.7 mg/kg体重/day	12 mg

ADI:許容一日摂取量 FAO/WHO 合同食品添加物専門委員会(JECFA)又はFAO/WHO 合同残留農薬専門家会議(JMPR)の評価による

実際に二酸化硫黄の材質試験と溶出試験を同時に行った場合、材質試験の方が溶出試験より高い値を示しました(材質試験結果 5.0mg/膳, 溶出試験結果 4.1mg/膳)。材質試験結果が暫定限度を超過していなければ二酸化硫黄の溶出試験結果は暫定限度を超えないと推測できます。

今回材質試験を実施した検体はすべてその値が限度内に収まっていました。割りばしに対しては防かび剤は使用されていませんが、二酸化硫黄は使用されているものの暫定限度は超えないものと思われます。

